

2.3 谷津を望む拠点と野原の自然を探る森づくり

整備地域の概要

整備地域の中央部には昨年伐採したコナラ林跡地があり、コナラの萌芽枝が成長するとともに、野原となって多種の野草が生育しています。

上部の遊歩道沿いには広葉樹やアズマネザサが密生し、利用しにくい状態になっていました。

下部の遊歩道沿いのがけ上にはコナラが列状に残っており、コナラ林跡地からの見通しが悪くなっていました。

最下部には谷津田の一部が含まれ、良い水辺となっています(図2.3)。

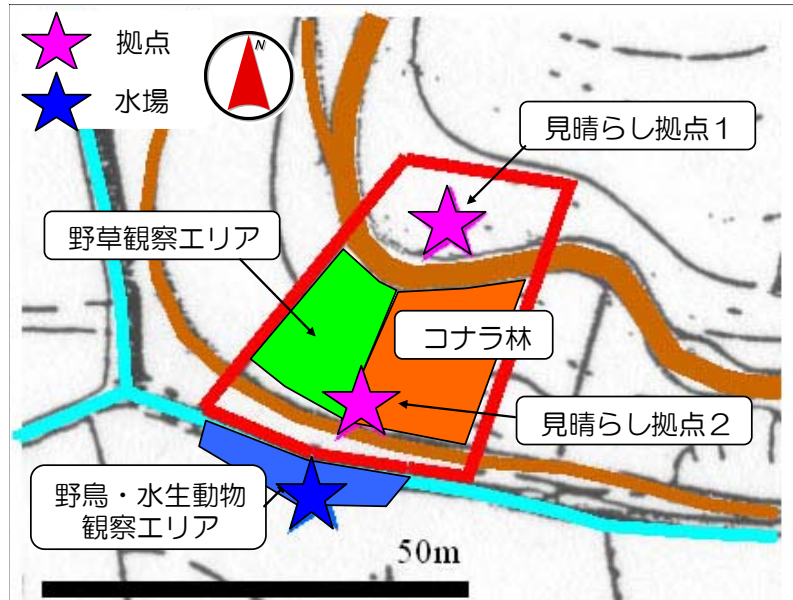


図 2.3 整備地域の概要と利用計画



現地でのミーティング



水場の造成

利用計画

見晴らし拠点を2か所造成し、1か所は上部の遊歩道沿いのサクラの下にベンチを置き、コナラ林跡地の野原を眺める場所として利用します。もう1か所は、下部の遊歩道のがけ上に木製テラスを設置して、谷津田を眺望したり野鳥を観察する場所として利用します。

整備地域の中央部分はコナラ林の伐採跡地で、萌芽枝を適切に管理し、野草の生育場所として利用しつつコナラ林の再生を図ります。

最下部の谷津田には水生動物が多く生息しており、伐採した樹木を使用して野鳥や水生動物を観察するエリアを設営します。

目標林型と整備方法

作成した利用計画に基づき、表 2.3 のように各エリアの目標林型を設定し、目標林型に導くための整備方法を検討しました。

表 2.3 エリア別の目標林型と整備方法

| エリア | 目標林型 | 整備方法 |
|---------------|---|---|
| 見晴らし拠点 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ● 視界をさえぎる低木層やアズマネザサがなく、野草を観察するエリアが見とおせる森。 ● サクラの下でお花見が楽しめる森。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 野草を観察するエリアが見とおせるように、アズマネザサを刈り払いかん木を伐採する。 ● サクラを生かし、休憩用のベンチを設置する。 |
| 野草を観察するエリア | <ul style="list-style-type: none"> ● 更新のためコナラ林を伐採した場所で、萌芽枝の生育を見守りながら野草を楽しめる林間を持つ森。 | <ul style="list-style-type: none"> ● コナラの萌芽枝を適切に管理し、下草が十分に生育する明るいコナラ林に整備する。 ● 草本植物を適度に刈り払う。 |
| 見晴らし拠点 (2) | <ul style="list-style-type: none"> ● 視界をさえぎる樹木がなく、谷津田の風景が眺望でき、眼下の水場の野鳥を観察できる林間。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 視界をさえぎるコナラを適度に伐採する。 ● 伐採したスギを利用してテラスを作る。 ● 落下防止用の柵を作る。 |
| 野鳥や水生動物の観察エリア | <ul style="list-style-type: none"> ● 野鳥の水場となり、カニやトンボが生育できるような谷津の湿地。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 周囲を刈払って明るくし、丸太を配置して水の流れをつくる。 |



見晴らし拠点 (2) の整備前



見晴らし拠点 (2) の整備後



鳥や水生動物の観察エリア



野草を観察するエリア

2.4 水場観察の拠点と南房の四季を探る森づくり

整備地域の概要

—和田きずなの森—

「きずなの森」は南房総市和田町黒岩にある地域の共有林で、「教育の森」として地域の子供達の森林教育の場としても活用されている森林です。整備地域は水田跡から立ち上がる主に西向き斜面で、崖状の急斜面の上になだらかな斜面が続いている場所です。

拠点の整備を行う場所は、急斜面から緩斜面に変わる部分で、緩斜面にはスギ、ケヤキ、アカマツなどの造林地が広がっていますが、急斜面側は常緑広葉樹が多く、林床にはアズマネザサなどが密生しており、周辺の景観はまったく望めない状態でした。

今回は、「四季の自然を探る」をテーマとしてウッドテラスと動物たちの水場の造成を1日行いました(図2.4)。



図 2.4 「きずなの森」整備地域の概要



整備地域の遠望(対岸より整備地域の拠点方向を望む)



完成したウッドテラスと「雨ニモマケズ」参加してくれた受講生のみなさん

季節の変化を観察する森の整備

まず始めに、この森からの眺望を確保し、野鳥や季節の変化を観察するための拠点として急斜面に生えるコナラの大木を利用したウッドテラスを計画しました。なだらかな斜面から崖上に突き出すようなデザインとなるウッドテラスを設置し、周辺の灌木を刈り払うことで対岸の山並みを望めるようになり、劇的な景観の変化を得ることができました。また、斜面下部の水田跡に野鳥のための水場を設けたことで野鳥観察の拠点として、また、この森林へのアプローチとなる歩道までもが遠望できるようになったことから、隠れ家的な要素も加味されました。

このテラスの材料は、新たな材料を購入するのではなく、現地の森林整備作業により発生した丸太や近くの千葉県森林組合安房支所から提供を受けた製材端材などを活用しました。当日の手伝いを買って出てくれた地元の皆さんの構想では、ウッドテラスにさらに小屋を建てたら・・・、ターザンロープをつけたら・・・と、アイデアは膨らみ続けており、地元のみなさんの手によってこの拠点はさらにユニークなものに成長していきそうです。



着手前（アズマネザサが密生し、谷側の景観はまったく望めない状態）



整備後（刈払い作業とウッドテラスの設置により快適な拠点となった）

野鳥や水生昆虫のための水場の整備

次に、整備地域に接する水田跡地にある流水を利用し、生き物の集まる水場の整備を行いました。ひとつは、拠点から見下ろせる場所で野鳥が水浴びなどに利用できる水深10cm程度の比較的浅い「野鳥の水浴び池」。もうひとつは、その少し下流側で水生昆虫などが生活できる空間としての水深50cm程度のちょっと深めの「昆虫観察池」です。作業当日は、雨天で足場と手元の悪い中でしたが、参加したみなさんがみずから考えて、水の流れを誘導し、止まり木を配するなど、生き物にとってより心地良い空間となるように工夫を凝らしました。



野鳥の水浴び池（拠点から見下ろす）



昆虫観察池（上流側より望む）

活用される拠点

教育の森としても活用されている「きすなの森」ですが、地元小学校の学習の一環として、この拠点が早速活用されました。子供たちみずからのアイデアと実際の作業で、新たにコナラの根元からウッドテラスに登るためのはしごとブランコが取り付けられました。子供たちにとって、自然に自然を学ぶ秘密基地のできあがりです。今後の活用が期待されます。



手作りのブランコを考えて森に遊ぶ⁽⁹⁾